



149:1 ハレルヤ。主に新しい歌を歌え。聖徒の集まりで主への賛美を。

149:2 イスラエルは、おのれの造り主にあって喜び。シオンの子らは、おのれの王にあって楽しめ。

149:3 踊りをもって、御名を賛美せよ。タンバリンと立琴をかなでて、主にほめ歌を歌え。

149:4 主は、ご自分の民を愛し、救いをもって貧しい者を飾られる。

149:5 聖徒たちは栄光の中で喜び勇め。おのれの床の上で、高らかに歌え。

149:6 彼らの口には、神への称賛、彼らの手には、もろ刃の剣があるように。

149:7 それは国々に復讐し、国民を懲らすため、

149:8 また、鎖で彼らの王たちを、鉄のかせで彼らの貴族たちを縛るため。

149:9 また書きしるされたさばきを彼らの間で行なうため。それは、すべての聖徒の誉れである。ハレルヤ。

詩篇のまともとも言える位置にあるのがこの歌です。詩篇のヘブル語名であるテヒリームは賛美という歌ですが、その多くは苦難の中で主に助けを求めるものです。詩篇150篇の終わりのほうになって、賛美であるハレルヤということばがようやく出てくるのは、私たちの人生がそのようなものであり、賛美もまたそのようなものだからです。

賛美とは苦しみを考えないようにするところから生まれるのではなく、また苦しみのない人から生まれるものもありません。苦しみを抱えながらも、全能の主に心を向けてするものなのです。

主はイスラエルの苦しみを、またはダビデの苦しみを「愛を持って」解決してくださり、弱い惨めな者のままでも「飾って」くださいます。美しい者、優れた者にしてくださいます。弱いままでもだい

じょうぶなのです。信じましょう。

また主は敵に対して、「復讐」をも与えてくださいます。そのような安心こそが心の安定を保つこともあると主はご存知なのです。それほどの仕打ちを受ける人も、この世ではあるのです。そこから自分が保たれて、その上で敵を赦すことも可能になってきます。誰かからひどい仕打ちを受けた経験のある人で、まだ恐れに縛られている人があるなら、復讐の主がついていることを覚えて安心しましょう。

そして安心が与えられたら、赦すことにチャレンジしていきましょう。赦すことは、自分が次のステップに進むためであると知ることができるでしょう。

そのようにどんな苦しみの中でも、主を賛美していきましょう。それが人生を肯定的、積極的、前向きにする大前提になります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

